

●読書案内●

## 竹内康人編著『戦時朝鮮人強制労働調査資料集2 一名簿・未払い金・動員数・遺骨・過去清算一』

飛田雄一

学生センターには出版部がある。私が部長ということになる。これまで40冊近くの本をだした。最初の本は、梶村秀樹『解放後の在日朝鮮人運動』。これは売れた。そして、はまってしまった。セミナーは参加者が多くても数十人（竹熊宜孝さんの講演会で230名をまさに詰め込んだこともある）だが、本は、もっと売れる。梶村さんの本は、当初500冊だしてすぐに販売し、あと500冊を4度増刷した。とてもいい本で、ソウルでまったく同じ？影印本を見たこともある（5ミリほど大きかった）。



セミナーの記録を単行本化するのが当初の目的だったが、徐々に逸脱いろいろな本をだした。そのいろいろの延長線上のシリーズが竹内康人の本だ。新刊は、『戦時朝鮮人強制労働調査資料集2一名簿・未払い金・動員数・遺骨・過去清算一』（神戸学生青年センター出版部、B5、212頁、1995円）だ。竹内さんは1990年代の「朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える全国交流集会」のときからの仲間だ。その交流集会であるとき、「各県ごとの強制連行地図をつくろう！」ということになった。2、3年たってもまったく進展しなかったある年、竹内さんが「作ってきました」と全国地図を作ってきたのである。各県の代表は恥ずかしいやら喜んだやら・・・。その作業が基礎となって作られたのが竹内康人編著『戦時朝鮮人強

制労働調査資料集一連行先一覧・全国地図・死亡者名簿一』（2008.7、B5、234頁、1575円）だ。

今年1月には、竹内康人編著『朝鮮人強制労働企業現在名一覧』（2012.1、A4、26頁、240円）を出した。強制連行企業1019社の現在の会社（271社となる）を特定したものだ。貴重な作業で、参考文献・典拠も銘記されている。ブックレットで、本むくげ通信も印刷している学生センターの最新印刷機で印刷している。原本を機会に入れれば、帳合して出来てくるという優れものだ。作業はホッチキスと折りだけだ。DTP（注文印刷、Desktop publishing）で、在庫がなくなれば10~20冊単位で印刷している。



竹内さん自身が書いた新刊書のコピーは、以下のとおり。

「どのような名簿が発見されているのか、労務・軍務で何十万人が動員されたのか、／軍人軍属はどこに動員されたのか、未払い金はどの事業所にどれくらいあったのか、／なぜ被害者個人に支払われなかつたのか、なぜ遺骨は返還されてこなかつたのか、／日韓会談時に外務省は動員についてどのように認識し、隠してきたのか、／追悼碑は各地にどれくらいあるのか、韓国では真相調査がどのようにすすんだのか／問題の解決に向けてどのような取り組みがなされてきたのか、

記しています。」

その主な内容は、以下のとおりだ。

(一) 朝鮮人強制連行者名簿の分析／労務動員関係名簿・陸軍留守名簿・海軍軍人軍属名簿、強制連行期朝鮮人名簿一覧 陸海軍軍人軍属名簿一覧ほか

(二) 朝鮮人未払い金の実態／『經濟協力 韓国一〇五 労働省調査 朝鮮人に対する賃金未払債務調』、労働省『朝鮮人の在日資産調査報告書綴』、東京法務局「金銭供託受付簿」の分析、朝鮮人未払い金事業所一覧 帰国朝鮮人未払い金調査・統括表、船員関係未払金一覧 三菱関係未払い金一覧ほか

(三) 強制動員数と遺骨／朝鮮人の動員と遺骨に対する外務省の認識、陸軍・朝鮮人軍人軍属地域別人員表(257404人)、海軍・朝鮮人軍人軍属復員状況(106728人)、集団移入朝鮮人労務者数、徴用開始期の集団的連行状況(1944年)ほか

(四) 過去清算の運動／強制連行・強制労働、日本軍性奴隸制、強制動員真相究明ネット研究集会、強制併合一〇〇年日韓市民共同宣言他、日本軍「慰安婦」問題アジア連帶会議 日本軍「慰安婦」問題の解決を!水曜集会、朝鮮人関係追悼碑調査、韓国強制動員委員会作成出版物一覧、朝鮮人関係追悼碑一覧、沖縄朝鮮人動員部隊一覧

●  
例えば上の「(一) 朝鮮人強制連行者名簿の分析」のなかの「軍人軍属関係史料」の項目は、次のように書かれている。

「韓国政府へと送られた軍人軍属関係名簿は以下のものがある。／「被徴用死亡者連名簿」二一六九二人、陸軍「留守名簿」一一四冊一六〇一四八人、海軍「軍人履歴原表」二一四二〇人、海軍「軍属身上調査表」七九三五八人、陸軍「兵籍・戦時名簿」二〇二二二人、陸軍「工員名票等」(軍属工員)二一〇二人、陸軍「軍属船員名簿」(陸軍軍属船員)七〇四六人、陸軍「病床日誌」(陸軍軍人軍属・診療記録)八五一人、陸軍「臨時軍人軍属届」四六一六四人、陸・海軍「俘虜名票」(捕虜軍人軍属)六九四二人(数値については韓国側がHPで公表したものを記した)。これらの多くは厚生省援護局関係史料である。／このうち主要な名簿は、陸軍「留守名簿」、海軍「軍人履歴原表」、海軍「軍属身上調査表」であり、これらの名簿だけで二六万人ほどになる。これらの名簿を分析することでどのような

部隊に編成されて、どれほどがアジア各地に連行されていったのかが明らかになるだろう。／これらの名簿を基礎に、他の工員名票、軍属船員名簿、俘虜名票、臨時軍人軍属届、被徴用死亡者連名簿(京畿・江原・忠清・慶尚・全羅・咸鏡・平安・黃海分)などの名簿と照合し補充することができる。／さらに、別途発見されている朝鮮人陸軍軍人調査名簿(戦後の復員調査)、パラオ諸島「朝鮮労務者関係綴」、メレヨン守備桑江隊関係名簿、学徒兵名簿、長崎金比羅山高射砲陣地朝鮮人兵士被爆名簿、沖縄捕虜収容所朝鮮人名簿、沖縄・本部町「特設水上勤務第一〇四中隊」軍夫編成表、ハワイ捕虜収容所名簿、太平洋戦争韓国人戦没者遺骨名簿などの照合・補充が求められる。／厚労省援護局調査資料室には、戦後作成の朝鮮人名簿「特水勤一〇四(球八八八七)朝鮮人状況不明者名簿 昭和二三年一二月 第一整理課船舶班調製」のような名簿が多数保管されているとみられる。厚労省にあるこれらの名簿類の公開が求められる。／韓国真相糾明委員会が収集した、中支派遣鯨六八八二部隊名簿、北支派遣鎮一一七四部隊第六中隊名簿、十字星盟友会会員録、海南島関係名簿、南方朝鮮出身者名簿、南方トラック島被徴用者名簿、クサイエ島朝鮮革進会芳名録、朔風会名簿といった名簿類との照合も求められる。性的奴隸とされた人々については、帰国者初期名簿、ビルマの名簿(英文)、証言などから名簿を作成し、軍属関係の名簿と照合して被害実態を明らかにすることが求められる。／帯広の土木名簿(朝鮮土木者連名簿一四八人)は「錫一〇四六部隊」からの引継ぎ者の名簿である。この名簿は陸軍飛行場建設関係で動員された朝鮮人のものであり、軍属として扱われていたとみられる。陸軍軍属関係名簿との照合が必要である。」

●  
この部分をお読みいただいただけでも全編が緻密な作業に裏打ちされてできたものであることが分かると思う。

●  
購入方法は、郵便振替<01160-6-1083財団法人神戸学生青年センター>に本代1995円+送料80円、計2075円を前もって送金していただくことにしており、学生センターの弱小事務局の労力節約のために完全前払いとさせていただいた。ご了承ねがいたい。

守屋敬彦ほか『朝鮮人強制労務動員実態調査報告書—北海道住友鴻之舞鉱山、韓国聞き取り調査2010.10—』

(2012.3.30、A4、78頁、560円、送料80円)／発行 強制動員真相究明ネットワーク

購入ご希望の方は、80円切手8枚(640円分、送料とも)を強制動員真相究明ネットワークまでお送りください。

〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1 (財)神戸学生青年センター内